

## AT&amp;T(T)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

米国の大手通信業サービス会社です。部門別の売上構成比は、法人向けの各種通信サービスを中心とするビジネスソリューション部門が43%、インターネットTV（「U-verse」）や衛星放送（「DirecTV」）などのビデオ事業やブロードバンドサービスを含むエンターテインメントグループ部門が32%、米国内携帯電話サービスのコンシューマーモビリティ部門が20%、南米でのエンターテインメント事業およびメキシコでの携帯電話事業からなる国際部門が5%です（17年12月期）。

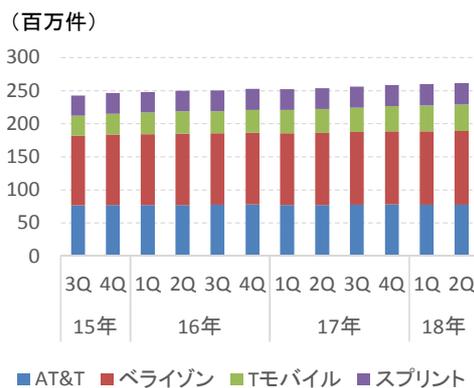
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	163,786	13,486	2.18	1.93	20.1	11.0	30.7
17年12月期	160,546	14,337	2.31	1.97	22.9	10.9	32.0
18年12月期予想	172,910	23,783	3.52	2.01	25.2	14.1	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

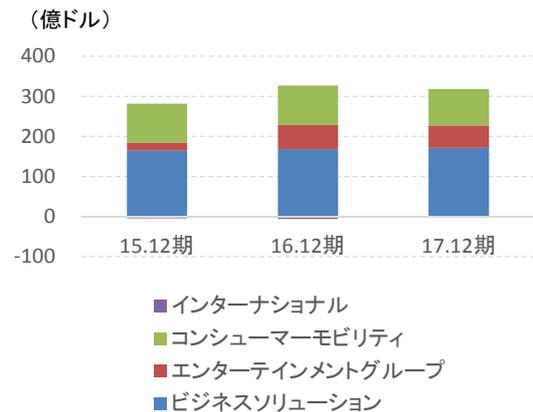
## 【主要指標】

図表1 米通信大手4社の携帯電話契約数（後払い契約）



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 部門別営業利益の推移



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

米国の携帯電話市場は飽和状態が近づきつつあり、同社の携帯電話契約者数（後払い契約）も77～78百万件で停滞している上、業界環境としても競争が激化しやすい状況が続いています。このため同社は、一流のコンテンツ、消費者への対応力、広告技術、ブロードバンドの通信能力などを統合することによって、新世代のメディア企業へ生まれ変わろうとしています。タイム・ワーナー社の買収完了によって、この事業プランは大きく前進することになり、当面コンテンツを活用したデジタル広告収入の増大が期待されます。

## 【見通し・注目点】

同社はタイム・ワーナー買収を18年6月に850億ドルで完了して、「ワーナーメディア」部門として業績への取り込みを始めています。タイム・ワーナー傘下には、ケーブルTV映画専門チャンネル「Cinemax」を運営するHBO、テレビ局のCNN、TNT、TBS、映画スタジオのワーナーブラザーズなどの事業があります。これらの資産を15年に485億ドルで買収した衛星放送の「DirectTV」と合わせて、いかに成長につなげていか注目されます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 18/10/10)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。